

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494400110	事業の開始年月日	平成29年4月1日
		指定年月日	平成29年4月1日
法人名	医療法人社団 慈広会		
事業所名	グループホーム 楓		
所在地	(〒252-1107) 神奈川県綾瀬市深谷中3-12-15		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果 市町村受理日	令和5年12月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・機械浴を設置しています。 ・朝食や行事等で、出来るだけ地域の食材を使用し提供しています。 ・開所当初より、月行事に力を入れています。(コロナ禍でご家族様との交流が出来なくなり、今もなおインフルエンザ等の感染症が流行しています。以前のようにご家族様と交流する機会が持てるよう、地域交流を含めて楽しい一時を過ごせるよう試行錯誤してまいります。)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年11月9日	評価機関 評価決定日	令和5年12月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 事業所は、小田急線長後駅からバス便で10分「大法寺」バス停から徒歩5分ほどのバス通りに面した位置にある。通りの向かい側のコンビニエンスストアや近隣のショッピングモールを外出イベントで利用している。木造2階建ての事業所の1階リビングに続く幅広いテラスや隣接の駐車場をお茶会や外気浴の際に活用している。事業所裏手にある職員宅の協力を得て、庭にある柿の実やブルーベリーの収穫を楽しんだり、散歩時には、庭を通り抜けている。 【食事を楽しむ支援の充実】 理念の基に定めた方針にある「綾瀬の野菜、地域の特産品をできるだけ生かした食事を提供します」に従い、散歩の際に無人販売で購入した地元野菜などを活用し、朝食を手作りで提供している。また週1回のお楽しみ昼食会では利用者の希望の食事を提供している。1階のテラスや隣接の駐車場で「ピクニック」と称して戸外での食事を楽しむこともある。 【災害対策への取り組み】 年2回の消防計画に沿う訓練を実施しているが、管理者は訓練時に緊張する職員の様子を見て、日頃の訓練の大切さを実感し、ほぼ毎月、自主避難訓練を実施している。浸水想定区外であるが、浸水想定垂直避難訓練も実施している。防災委員会を設置して、備品の管理、マニュアルの整備を行っている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム楓
ユニット名	1 階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	☐	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	グループホーム楓
ユニット名	2 階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	☐	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に張り出し、出勤前に確認する。 合同会議で年2回意識づけを行っている。	3項目からなる事業所理念は、開所時に職員が話し合って作成したものである。その他に具体的な4つの方針を定めている。管理者は理念の「安全に配慮しながら家庭的な雰囲気の中で生活できるように致します」を、より大切に運営に取り組んでいる。理念は事務所に掲示し、出勤時に職員が確認し、毎月開催している合同会議の中で、年2回程、理念について、確認し、意識付けする機会を設けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染予防で自治会行事の中止や時間帯の変更等で参加ができない事が増えたが、今まで通り、お散歩や近隣のブルーベリー収穫は行わせて頂いている。	中村自治会1区に加入している。本年度、少しずつ再開された地域の行事への参加は、感染の状況や猛暑の為、叶わなかったが、今後は参加していく意向である。現在、利用者、職員のみで開催している事業所の行事「楓まつり」にも、今後、地域の人々を招いていく方針である。小中学生のお雛子のボランティアを受け入れている。管理者は、コロナ禍以前のフラダンス、大正琴、オカリナ演奏などのボランティアの方の受入れの再開に向けて取り組む予定である。	感染の状況や気候の状態をみながら、事業所の行事への地域の人々の参加、ボランティアの方の受入れ再開など、積極的に、地域とのつきあいの再開を図られることを望みます。近隣の中学校との職業体験などの交流もご提案します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、見学や相談は行い、認知症についての理解や施設の様子を見て頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防の為、書面開催をしていたが、9月より再開している。 ご家族や地域の方々に施設内の様子や運営状況をお伝えしている。	コロナ禍では、2ヶ月毎に書面で開催していたが本年9月より対面での開催を再開した。メンバーは自治会役員、民生委員、市の高齢介護課職員、地域包括支援センター職員、家族となっている。家族全員に案内を送付しており、今回の会議には7名の家族が参加した。メンバーからは機械浴の利用などの入浴、食事の提供（3食業者利用でなく手作りの提供もあること）についての質問や行事の再開の要望が寄せられた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は質問させて頂いている。（加算や感染状況等について）	市の高齢介護課に運営推進会議の開催案内と報告書を郵送している。生活保護を受給している利用者があり、生活保護の担当窓口である福祉総務課と電話で連絡を取っている。行政に相談できる体制を維持し、連携している。また、年1回の行政の集団研修に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回学習会を開催。 自己点検チェック表も年に2回実施。 その結果を話し合い共有している。	身体拘束等適正化のための指針を定め、身体的拘束等対策マニュアルを整備している。身体的拘束廃止委員会では毎月、身体拘束廃止のための学習会を年4回実施している。毎月の学習会は全員参加としているが、欠席した職員には、資料を配布して内容を共有している。外出願望の強い利用者には散歩を促すなど職員の見守りのもと対応している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会も含め、年に2回事故アンケートを実施している。 職員面談は年に1回。 （必要時はその都度行っている）	高齢者虐待防止のための指針を定め、虐待防止委員会を毎月実施している。また虐待防止のための学習会を年4回実施し、高齢者虐待防止法等について学び、虐待の通報義務についても報告ルートを定めて周知している。不適切なケアについては県の虐待防止に向けた自己点検リストで振り返りを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会で学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類を一緒に確認し、不明な点がないかを途中途中聞きながら、説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時、受診時など、近況報告時に要望等を聞いている。 また、運営推進会議でもご家族の要望を聞いている。	家族の意見・要望は、面会時や運営推進会議の出欠確認時、アンケートなどで把握している。面会は予約面会のほかりモート面会も継続している。コロナ禍以前3ヶ月に一度、行事に合わせて開催していた家族会は12月からの再開を検討している。「面会や外出・外泊をもっと自由にして欲しい」といった要望が多く、感染症の状況を見ながら対応していく意向である。家族に向けての楓だよりに掲載する利用者写真の偏りへの指摘があり、写真の掲載の偏りがないよう対応した	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の見直しで、業務改善に反映中。	毎月のフロア会議と合同会議、個人面談などで職員の意見、提案を把握して、運営に反映している。個人面談は、年1回人事評価を兼ねて実施している。管理者は、日常的な会話でも意見や要望を聞いている。行事の企画担当の職員が利用者の要望をきき近隣のショッピングセンターへ買い物ツアーを企画した例や、早番、日勤、夜勤それぞれでの業務量のばらつきを修正した例がある	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、勤続手当を設けている。 各階、必要時に声をかけやすい環境づくりに務めている。	管理者は、年1度の個人面談の他、必要に応じて随時面談して相談に乗り、ストレスの確認も行っている。資格に応じた資格手当や、勤続手当がある。資格取得支援は資格によって異なるが多くは取得後の資格手当で充当している。職員の休憩室を完備している。またハラスメント委員会設置し、対応マニュアルやチェック表を整備して対策を講じている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の力量や把握に努め、各係や担当を付けている。 月1回学習会にてスキルアップに努めている。個人により、業務中時間を作り実践をしながら教えている。	年間研修計画を策定し、毎月学習会を実施している。参加できなかった職員には資料を配布し、原則自己学習としている。学習会には非常勤職員も参加できる。介護支援専門員の資格取得研修、認知症の研修、オンラインでの外部研修の受講も勤務扱いとなる。新入職員は、事業所での入職時研修の他、必要に応じて法人の研修にも参加してもらっている。その後、各フロアの常勤職員が指導担当となり、1か月程度のOJTを実施している。面談では今後の目指すキャリアなどについて話すことがある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	慈広会の学習会への参加。 不明な点があれば、他のグループホームへ連絡を取り、その際に情報交換をしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時、契約時にご本人、ご家族の困っている事、要望等を聞き安心して預けられる様、務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を傾聴し、本人やご家族が安心して生活できるよう、相談しながらケアの内容を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様の話を傾聴し、必要時には訪問マッサージ、リハビリ等の提案をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見出し、協力（お手伝い等）してもらい、役割を持った生活をできる環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染防止の為、面会時やリモート面会時に近況報告をし、施設内の様子が分かるよう「楓便り」や、「個人の1ヶ月の様子」等やブログをアップする等、施設内の情報提供に努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策の為、主にリモート面会や、予約面会を行っている。また、お散歩時に無人販売に行き買い物を楽しんでいる。自宅に戻りたい方は、外出として自宅に戻っている。	馴染みの人や場所は、アセスメントや家族からの話で把握している。知人・友人の面会も認めているが、希望がないのが現状である。手紙の取次ぎを行っている。以前からの趣味である編み物や川柳を楽しむ方、テラスのプランターで園芸を楽しむ方がいる。化粧を続ける方もいる。長く訪問している理容師が馴染みとなっている他、近隣の協力美容院に通う利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活やその日の状態で散歩へ行くメンバーを変えたり、作業する時間やペアを変えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後すぐのお手紙は対応している。退居後に相談があれば、相談にのっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスにて家族、本人の意向が聞ける方是对応している。意向が言えない利用者に関してはご家族様へ相談しながら、無理強いはせず対応している。	アセスメントを基に、また家族や入居前のケアマネジャーからの情報を参考にして、思いや意向を把握している。利用者から、行きたいところや会いたい人等の話が出た時は、家族に確認の上で相手に電話をつなぐ支援した例がある。意向を言葉にできない利用者には、家族に確認して、利用者本位の対応を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の記録も含め、出来ていることは継続するよう合同会議で情報の共有に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録も含め、出来ていることは継続し、新しい試みをし、出来た事があれば1つ増やして継続に繋げるようにしている。			
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居より1カ月は本人と職員とが施設の生活(様子)がつかめる内容を主に立てている。その後の様子を踏まえ意見を出し合い計画を立て直している。	入居時は1ヶ月の暫定プランを作成している。毎月のフロア会議でケアカンファレンスを行い、職員の意見を基にモニタリングし、介護計画は短期目標3ヶ月、長期目標は6ヶ月で見直している。家族の意向は面会時や電話連絡、看護師の意見は週1回の訪問時に確認している。介護計画を管理日誌と一緒にファイルし、内容を確認できるようにしている。管理日誌記載時に、実施した介護計画のサービス内容の番号を記入するようにして、計画とケアの連動を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や管理日誌上にて新しく出来た内容を共有し次回のプランに反映させている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の了解や依頼のもと、ご本人より可能な限りの買い物の支援。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通学時の子供たちの窓越し見送り。自治会の清掃作業への参加。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合は、ご家族の協力のもと受診している。 個々の訪問歯科を対応している。	協力医療機関(法人の病院)の医師(内科)が、月1回訪問診療を行っている。受診の情報は「訪問診療報告書」で共有している。訪問診療時には、薬剤師も同席している。法人の病院の看護師(24時間オンコール対応)が、週1回来所し利用者の健康管理をしている。歯科医は希望者に対し、週1回程度訪問診療をし、治療や口腔ケアをしている。また法人の介護老人保健施設の理学療法士が、月1回来所して、機能訓練のアドバイスを行っている。以前のかかりつけ医を受診している利用者は2名おり、他科の受診ともに家族対応としている。情報は「受診報告書」で、情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、訪問医の意見ノートを作り報告、相談をしている。 必要に応じて受診が受けれるよう診療情報提供書や紹介状の作成を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院は法人にある為、情報交換は行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際の話し合いを持ち、また重度化した際にご家族、本人、医師、看護師、薬剤師、理学療法士含め、話し合いケア、方針を決めている。	入所契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」と「看取りに関する指針」、「終末期医療についての事前確認書」を説明し同意を得ている。看取りの際は、再度「看取りに関する指針」に同意を得て「看取り介護計画」を作成している。説明時は、医師も同席している。今年度は2名の看取りを行った。看取りの研修は、看護を講師とした年間研修計画に基づく学習会の他、看取り開始時と看取り後の振り返り時にも実施している。グリーフケアとして、家族の希望があれば写真データの提供を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回、事故発生、再発防止に努めるよう話し合いを行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、避難経路、手順や機器操作の確認を行っている。	6月に昼間想定、12月に夜間想定の方針の避難訓練を実施している。災害対策は頻度が大切と考え毎月、自主避難訓練を行っている。浸水想定区域にはなっていないが、5月に、浸水を想定した垂直避難訓練を実施した。事業所では、防災委員会を設置して、備品の在庫チェックやマニュアルの見直し等を行っている。備蓄は利用者と日勤職員の3日分の食品と熱源、食器等備品を確保し、リストで管理している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の申し送り時にインシヤルやアイコンタクトで職員間に行うようにしている。 入居者の会話では初めて教わる姿勢を心がけるように、また傾聴するようにしている。	年2回の接遇と、年1回の法令遵守の学習会を実施している。事業所では家庭的な雰囲気大切にしたいと利用者、職員ともにファーストネームで呼び合っている。職員間の会話では、利用者をインシヤルで呼ぶようにしている。トイレ誘導は、小声で誘導することを心がけている。個人情報を含む書類は、鍵のかかるキャビネットに保管している。管理者と計画作成担当者が使用するPCや、職員が使うタブレット端末は、パスワードで管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り個々の要望等を聞いて対応している。 (食事や買い物、趣味活動等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りは個々が自由に生活できるよう外出の付き添い等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方にはお化粧品やマニキュアをする日を設けている。 近隣の美容院へ行く方もいる。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	散歩時の野菜や果物の購入。 行事の日（月2～4回）を作り、利用者のリクエストを、職員と一緒に準備したり、場所を変え（外やテラス）などで食事をしている。また、外出行事としてフードコート内での食事をした。	朝食は、職員が食材を購入し、利用者の希望などを反映しながら、夜勤の職員が手作りしている。食材には散歩の際に購入した、無人販売の野菜や果物など地域の産物を中心に取り入れている。昼食と夕食は、業者から届く調理済み食材を湯煎して提供している。ご飯・麺類とみそ汁は職員が手作りしている。週1回程度、お楽しみ昼食会を開催して、利用者の希望などを反映した料理を提供している。下ごしらえ、調理に携わる利用者もいる。出前の握り寿司や、フードコートでの外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量の把握や食事形態の変更や調整を行っている。 必要に応じて栄養補助食品の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあったブラシやスポンジにて口腔ケアを行っている。個人によっては、訪問歯科を使用して対応している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて誘導、排泄を行っている。 トイレでの排泄を試し、行えるようにしている。 パット状況のカンファを月1回行っている。	排泄記録で排泄パターンを把握しトイレ誘導してトイレでの自立排泄を支援している。自力でトイレに行ける利用者は、7名、一日中おむつを利用している利用者は、4名である。終日おむつを使用していた方が、昼間は、リハビリパンツを使用し、トイレでの排泄が可能となった改善事例がある。夜間は、個人の特性に合わせた支援しているが、睡眠を優先している利用者が多い。トイレの清掃・消毒は、朝と夕のほか、随時行っている。利用者が手伝う場合がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操をはじめ、食事や水分内服薬で対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	機械浴の関係で入浴の曜日は決まっている。 入浴のタイミングは個々に合わせている。	入浴は、週2回を基本としている。浴室は、1階が機械浴、2階が個浴となっている。機械浴は1階7名、2階3名の計10名が利用している。2人介助で、入浴毎に都度、湯を入れ替えている。個浴は、見守り程度の利用者が利用している。湯はかけ流しである。利用者2人で入りたいという希望があり、対応している。希望があれば、同性介助にも対応している。入浴を好まない利用者には、職員を変えて声をかけたり、気分転換を図ってもらい、入浴を促している。脱衣室は、エアコンを設置してヒートショック対策をしている。浴室はお湯をためて温めている。菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいる。好みのシャンプーを使用している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に休む時間を（ソファやベッドにて）作っているが、基本的に日中は活動を増やして、夜間の睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時は、連絡ノートや変化記入ボードにて記載し、各職員が把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り役割が持てるよう支援している（散歩際のお買い物、園芸担当、手芸担当、工作等）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数にて感染対策をしながら、外出に行うようにしている。	天気の良い日は、車いすを使用している利用者も一緒に、毎日公園などに散歩に出かけている。その日、散歩に出る利用者の状況に応じて、職員の人数を確保し支援している。テラスでの外気浴やお茶会、駐車場スペースでの外気浴や食事、また裏手にある職員宅の庭で柿の実やブルーベリーの収穫を楽しんでいる。ドライブを兼ねてショッピングセンターのフードコートでの外食や、市役所にある桜の花見、蟹ヶ谷公園のハスの花観賞などに出掛けている。家族と通院帰りにの墓参りに行った方や結婚式や3回忌に参列するため外泊した方がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所にてお預かりしている。シャンプーや石鹸、衣類等の購入希望に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談のもと、電話使用が出来る方は居室内にて行うよう携帯の持参を可としている。手紙もご家族様より届いた際は本人に渡している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁画は季節に応じて対応。食事の際は、有線を流している。定期的に換気をし、風、光を取り入れている。照明やカーテンは都度調整している。	リビングは、天井が高く、大きな窓があり、採光もよく明るい。車いすの動線も確保できている。床には、クッション性のある床材を使用している。キッチンや事務室からリビングの利用者を見守りできる構造になっている。管理者は、リビングを「利用者と職員、両方が楽しめる場にしたい」と考えている。温度・湿度計を参考に、エアコンで温度や湿度を調整し、必要に応じて加湿器や空気清浄機を活用している。清掃は朝と夕に職員が行っており、利用者も手伝っている。リビングや廊下の壁には、利用者と職員が作成した切り絵や折り紙等の季節毎の飾りつけのほか、書や、行事の写真などを掲示している	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席やソファの配置を定期的に変えている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自己の使い慣れたものを持参することは可としている。（移動スペースの確保が出来るものに限る）	居室の入口には、職員が作成した「名前(ファーストネーム)」が大きく書かれた表札がかけられている。居室にはエアコン、照明、防災カーテン、収納タンス、ベッド、洗面台、タンスが設置されている。利用者は、テーブルや椅子、テレビ、家族の写真、仏壇、職員と一緒に作った作品や書、三味線など思い思いの品を置いている。居室の清掃は朝を中心に職員が行う。居室担当制となっており、季節の変わり目のタンスの整理などを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々を理解し、その方が出来た事を活かし見守り安全に過ごせるように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム楓

作成日

令和5年12月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	感染症の為、地域交流が行えずにいたが、家族会や運営推進委員会等も含め再開を目指す	・面会、外出等の緩和。 ・地域等の行事への参加 ・会の再開 ・楓で行う行事に地域より参加	・小まめに外出や面会等の緩和に向けた検討をして、より感染症前に近づけていく ・行事への参加を感染症対策を取り行っていく	1年
2	16	災害訓練の定着	・職員全員が慌てずに実際に起きた際（火災や震災等）に対応できる	・定期的に避難訓練の中で地震や台風等の自然災害に備えた訓練を行い、職員全員が慌てずに実際に起きた際に対応できる	1年
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。